

Economic Indicators

発表日: 2018年10月26日(金)

消費者物価指数(東京都区部・2018年10月)

～当面+1%前後の推移が続く見込み～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)

(単位:%)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
17	1月	0.4	0.1	0.1	0.2	9.2	0.1	▲0.3	0.0	0.1	11.7
	2月	0.3	0.2	▲0.1	0.1	13.2	▲0.3	▲0.3	▲0.1	0.0	14.4
	3月	0.2	0.2	▲0.3	▲0.1	16.2	▲0.4	▲0.4	▲0.4	▲0.2	19.7
	4月	0.4	0.3	▲0.3	▲0.0	12.8	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲0.1	14.3
	5月	0.4	0.4	▲0.2	0.0	11.2	0.1	0.1	▲0.2	0.0	11.6
	6月	0.4	0.4	▲0.2	0.0	6.6	0.1	0.0	▲0.4	▲0.2	7.1
	7月	0.4	0.5	▲0.1	0.1	6.6	0.2	0.2	▲0.3	▲0.1	8.1
	8月	0.7	0.7	0.0	0.2	7.6	0.5	0.4	▲0.1	0.0	9.6
	9月	0.7	0.7	0.0	0.2	7.2	0.5	0.5	▲0.1	0.0	8.3
	10月	0.2	0.8	0.0	0.2	9.4	▲0.1	0.6	0.0	0.1	10.6
	11月	0.6	0.9	0.1	0.3	10.1	0.3	0.6	0.1	0.2	11.4
	12月	1.0	0.9	0.1	0.3	9.0	1.0	0.8	0.2	0.4	9.9
18	1月	1.4	0.9	0.1	0.4	7.3	1.3	0.7	0.3	0.4	8.8
	2月	1.5	1.0	0.3	0.5	9.2	1.4	0.9	0.4	0.5	10.7
	3月	1.1	0.9	0.3	0.5	7.0	1.0	0.8	0.4	0.5	7.6
	4月	0.6	0.7	0.1	0.4	7.0	0.5	0.6	0.3	0.3	7.2
	5月	0.7	0.7	0.1	0.3	9.1	0.4	0.5	0.1	0.2	11.0
	6月	0.7	0.8	0.0	0.2	13.6	0.6	0.7	0.3	0.4	15.7
	7月	0.9	0.8	0.0	0.3	14.3	0.9	0.8	0.4	0.5	15.7
	8月	1.3	0.9	0.2	0.4	13.9	1.2	0.9	0.5	0.6	15.4
	9月	1.2	1.0	0.1	0.4	14.8	1.2	1.0	0.5	0.7	16.3
	10月	-	-	-	-	-	1.5	1.0	0.5	0.6	17.2

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○前月から変化なし

総務省から発表された18年10月の東京都区部消費者物価指数(生鮮食品除く)は前年比+1.0%と、前月から上昇率に変化はなかった。事前の市場予想通りの結果であり、内容にも意外感はない。エネルギー価格が前月から伸びを高めた一方でエネルギー以外がやや鈍化し、全体では前月と変わらずという結果である。当面、CPIコアは前年比+1%前後の推移が続く可能性が高いだろう。

○エネルギー価格の上昇率が拡大

エネルギー価格は前年比+7.4%と、前月の+6.4%から伸びが高まった(前年比寄与度:9月+0.33%Pt → 10月+0.39%Pt)。原油価格の上昇を受けて、ガソリン、灯油といった石油製品価格が前月比で高い伸びとなり、前年比でも伸びを高めたことに加え、過去の燃料価格上昇が反映されたことで電気・ガス代もプラス寄与が拡大した。先行きについては、石油製品は前年に高い伸びになっ



ていたことの裏が出る関係でプラス寄与の縮小が見込まれる一方、電気・ガス代は過去の燃料費価格上昇の影響が遅れて出ることによって上昇率の拡大が見込まれ、エネルギー価格全体で見れば高止まりという形になるだろう。引き続き、エネルギー価格がCPIを支える要因になるとみられる。

○エネルギー以外は伸び悩み

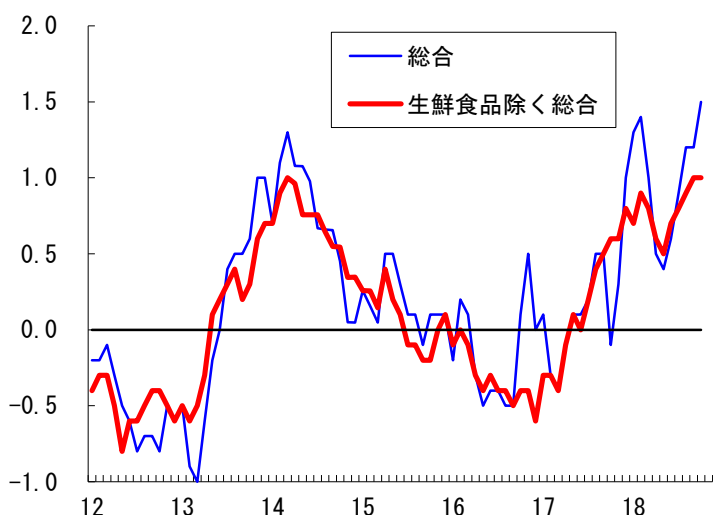
除く生鮮食品・エネルギー（日銀版コアコア）は前年比+0.6%（9月：+0.7%）と、前月からやや鈍化した。6月以降、4ヶ月連続で上昇率が拡大していたが、いったん足踏みとなっている。内訳では、増税に伴う値上げがあったたばこや、傷害保険料、ゴルフクラブなどが上昇した一方で、9月に高い伸びとなっていた被服及び履物が鈍化したほか、プリンタ、携帯電話機などが下振れに寄与している。また、これまで上昇が続いていた食料品（生鮮除く）も上昇率を若干縮小させている。全体的に、前月から大きな変化はみられない。

日銀版コアコアの上昇ペースは引き続き鈍いことに加え、このところ東京都区部に比べて全国では低い伸びになる傾向があることにも注意が必要である。個人消費に力強さが欠けること等を背景として、値上げに対する企業の慎重姿勢が引き続き根強いことを考えると、日銀版コアコアの先行きについて強気になることは難しい。エネルギー価格が高止まる一方、エネルギー以外は伸び悩みという構図に変化はみられていないとみるべきだろう。

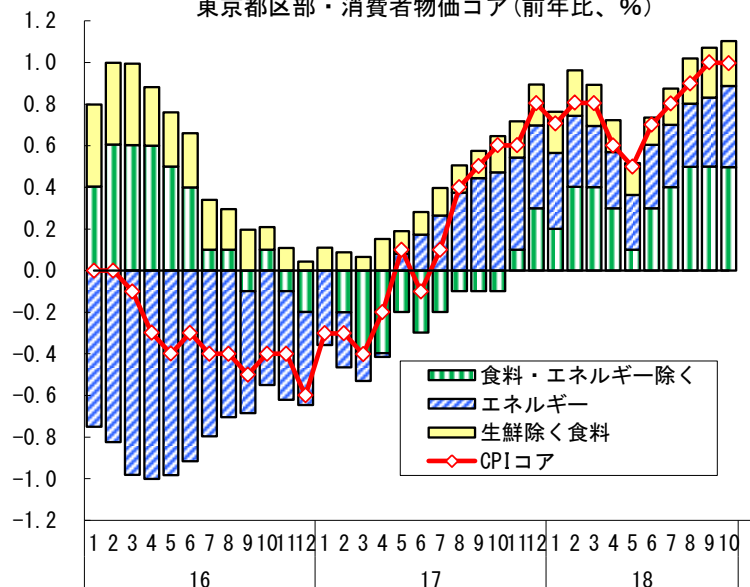
○当面、+1%前後の推移が続く見込み

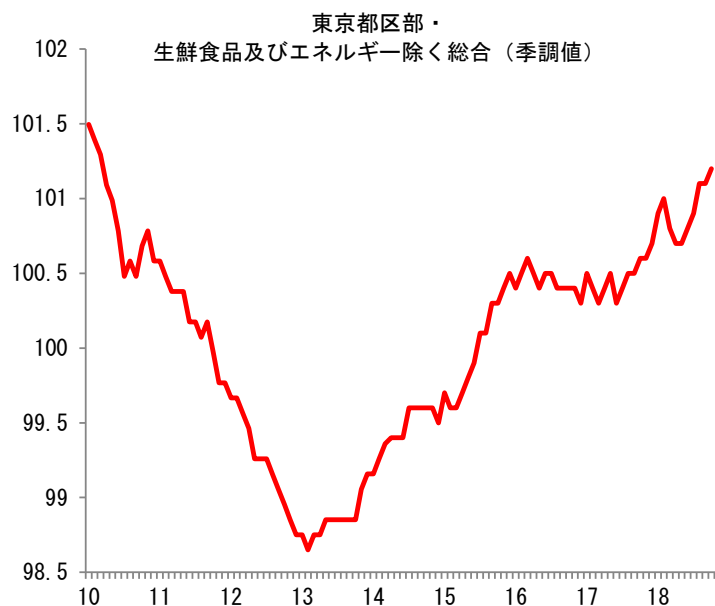
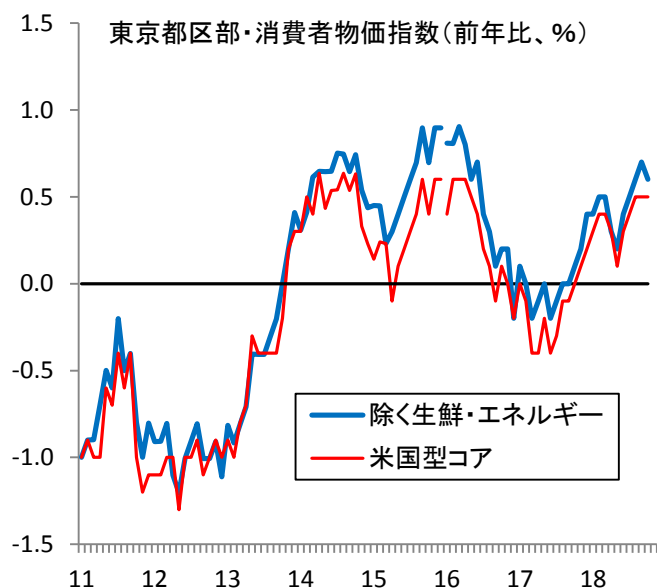
都区部CPIコアは2ヶ月連続の+1%となったが、このままCPIコアの上昇率が拡大していく可能性は低いとみている。エネルギー価格のプラス寄与は高止まりが予想され、引き続きCPIコアの上昇を支える一方、エネルギー以外の部分については改善が鈍い状況であり、先行きもめだって伸びを高めるには至らないだろう。当面、CPIコアは前年比で+1.0%程度の推移が続くと予想している。

東京都区部・消費者物価指数（前年比、%）



東京都区部・消費者物価コア（前年比、%）





(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

(注) 消費税率引き上げの影響は除いている

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

